

# 益城の文化財

## あみだどう 阿弥陀堂

—平田下—



2014/03/05

平田地区の中央、寿徳寺境内の東隣に「ドウさん」と呼ばれる阿弥陀堂がある。小さな堂の中には、木造の阿弥陀仏座像が安置されている。近所の古老の話では改築以前は3坪程ある堂で、寺子屋の様だった。戦後は子どもたちの遊び場だったそうだ。この仏像がいつ誰の制作かは史料がなく不明だが、相当古いものようである。ここから南へ百メートル程の高台には『福田村郷土誌』によると東照山西福寺があったといわれる。「福」を使っているので天台宗系寺院であったと思われる。現在は宅地となっているが屋敷内と道をはさんだ畑には五輪塔の残欠や逆修碑がみられ、中には延宝2(1674)年の板碑や寛永8(1631)年の逆修碑等の紀銘がある。また、田んぼ1枚をはさんだ北の高台には、現在、円満山寿徳寺がある(元は円満山寿福寺、福田寺の末寺。承応2(1653)年、僧・了賀が開基し寿徳寺と改称した)。なぜこのせまい所に2つの寺と堂が建てられたか不明だが、栗津宗英編『皆乗寺誌』によると16世紀後期、島津義久の肥後侵略で益城町の社寺仏閣、城郭はもとより一般民家の大半を焼失し寺が一つもない時期が17世紀前期まで70年間続いたとあり、寺が焼かれる時、この本堂の阿弥陀仏を持ち出し、ここに小堂を建てて大事に祀って来たのではないかとも思われる。

### 参考文献

『益城町史』通史編

『皆乗寺誌』栗津宗英編

『福田村郷土誌』

町文化財保護委員会

## 俳句

早川宏次 選

風花や藪に地啼きの慌し  
下陳 城 陶子  
芹摘めば右手に残る香りあり  
広崎 松原まゆみ  
杏咲く明日の検査の如何ならん  
木山 山口サツキ  
八重椿咲きつつすでに散りはじめ  
惣領 阪口由美子  
春待ちのつぼにはさんだ黄水仙  
惣領 新居 露子  
虎柄のパンツを穿きて豆をまく  
惣領 小森英美子  
月あかり嫁に癒しの仕舞い風呂  
木山 増岡 伸禧  
カルデラを神が染めたる銀世界  
惣領 阪口 基明

## 狂句

田上富岳 選

こじつけて 遺産のつとり企ます  
惣領 小森英美子  
こじつけて どうでん離婚したか風  
宮園 岩本まろく  
こじつけて 尖閣諸島盗るつもり  
宮園 永瀬 美波  
こじつけて 今日は何んの日祝い酒  
島田 堀川 骨鶏  
こじつけて 黒も白てち言い張らす  
寺迫 左 喜樹  
一生もん 恩師の教え宝もん  
惣領 阪口 基明  
一生もん 母の糠床むすめ継ぎ  
木山 増岡 酔粹  
一生もん やっぱ資格は取っとかにかやあ  
宮園 井藤 吉郎  
一生もん 母からもろたつげの櫛  
安永 守山 敏子  
一生もん 齒無しになつてわからした  
広崎 松原まゆみ

## 狂句次号の課題 「ぽかぽか」「そそのかさね」

投稿は役場広報係まで。漢字は読み方を記入。

投稿締切日は毎月15日です(当日必着)。

※数種に投稿される場合は、別にお送りください。